

令和6年度足柄高等学校第3回学校運営協議会 会議概要

令和7年3月21日（金）
足柄高等学校 会議室

令和6年度の足柄高校（校長）

- 令和6年度在籍状況
- 令和7年度入学者選抜結果について
 - ・一次で221名、うち特別募集枠18名を合格とした。
- 令和6年度の学校運営における報告
 - 1 令和7年度教育課程の一部改訂について
 - ・「総合的な探究の時間」に位置付けていた「朝読書」の時間を、次年度以降は「Ashi活」とした。内容を読書に限定しないことで、朝の学習の時間として柔軟に活用していくことを目的としている。
 - 3 「総合的な探究の時間」の取組について
 - ・1人1台端末を導入し、アプリを活用して進路学習を行っている。
 - ・1年生は地域学習、2年生は修学旅行に合わせて沖縄に関する探究活動を行い、各学年で自分の探究活動についてまとめたスライドを用いて成果発表を行った。
 - 4 今年度の授業改善に向けた推進について
 - ・今年度は授業改善のテーマを「言語活動の充実」と設定し、生徒が参加できる授業づくりを実践する場となった。
 - ・神奈川県教育委員会保健体育課とともに「共に学び共に育つ体育授業の研究」を行い、インクルーシブな授業づくりについて考えるきっかけとなった。今まで通りの授業ではなく、どの生徒も自分の目標を持ち、主体的に学ぶことができる授業とはどのようなものかについて考える機会となつた。

質疑（○：委員 ●：学校）

- 朝読書から「Ashi活」に変更した理由は何か。
- 総合的な探究の時間の単位付けを見直した結果、朝読書を単位認定から除外し、活動を読書に限定しないことで、柔軟な学習活動を行うことができるためである。
- 1日の生活のスタートにおける朝読書の良さは残るのか。改变するのであれば、生徒にとって有効なものになるようにしてほしい。
- 朝読書をすることで、落ち着いて一時間目の授業を受けることができるという流れは残す。活動内容を読書に限定しないという改変となっている。

協議 令和6年度学校評価報告書について

視点1 教育課程・学習指導

<教務グループ>

- ・授業参観週間において、他教科の授業を参観する先生が増加し、ICTを活用した授業づくりや教科横断型授業等への意識の高まりが見られた。
- ・一つの授業に多くの教員が関わるケースが増えるが、授業改善の方策としての評価のタイミングや方法について、まことに連絡を取り合っていきたい。

- ・スタディサプリの活用状況について、今年度の1, 2年生は以前より活用率が高くなった。今後は、生徒が自分の苦手とする箇所を主体的に学ぶことができるような取組みを行っていきたい。

<情報管理グループ>

- ・1年生では自分の端末を活用して総合的な探究の時間に取り組む生徒が増えた。今後も自分の端末を積極的に活用できるように、日々の授業等における使用について指導していきたい。

視点2 生徒指導・支援

<生徒会グループ>

- ・40年ぶりの体育祭開催にあたって、他の学校の様子等も参考にしつつ、これまで行っていた陸上競技大会もベースにして運営を行った。文化祭、球技大会などの行事は、コロナ前のような規模・内容で行うことができた。より良いものにするための検討を重ねながら、次年度以降も進めていく。
- ・文化祭については、社会的にキャッシュレス化が広がっていることも踏まえ、実際にキャッシュレス決済の導入ができないか検討している。
- ・地域との関係について、近隣自治会と協力し、地域清掃を中心にコミュニケーションを深めるきっかけになっている。
- ・部活動については、小学生や中学生にも足柄高校の存在を知ってもらうきっかけづくりにも繋がるため、他校種との合同練習も検討している。

<生徒支援グループ>

- ・交通安全指導について、地域の方からのご意見は大幅に減少した。交通安全指導における南足柄市シルバー人材の活用については、次年度以降も継続したい。
- ・自転車ヘルメットの着用も徐々に増えている。今後の課題として、自転車使用人数の20~25%を目標にヘルメットを積極的に着用するよう指導していきたい。
- ・教育相談については、教育相談コーディネーターを中心に行っていている。今後は各学年に教育相談担当者を配置し、教育相談コーディネーター1人に業務が集中しないような環境づくりを進めていきたい。

視点3 進路指導・支援

<進路グループ>

- ・進路状況については、補習や進路指導によって例年並みもしくはそれ以上の結果になった。
- ・総合的な探究の時間では、一年生を対象に、地域の企業に講話ををしていただく機会を設けた。自ら地域の課題を発見し、自分で調べ、解決策を見つけるという、本来の探究活動の形をとることができた。
- ・特別募集の生徒について、前期実習やキャリアの授業を充実させるとともに、インクルーシブ支援員のサポートも受けながら、生徒自身の自己理解を深めさせるような進路指導を行った。
- ・今後は校内の進路指導体制の見直しを行い、より生徒の希望進路実現に沿えるようなサポート体制を築いていきたい。

視点4 地域等との協働

<情報管理グループ>

- ・同窓会に協力していただき、学校紹介動画を作成し、それをHPに掲載したり、説明会で上映したりして活用した。また、X等もこまめに更新して、中学生や保護者に关心を持ってもらえるよ

うに努めた。今後、新入生にアンケートを行い、中学生に向けてどのような情報を発信していくべきかを検討するための材料としたい。

- ・7年度は、中学生が部活動を見学できる機会を設けたい。

<管理運営グループ>

- ・避難所開設訓練について、自治会からも参加していただいたが、さらに地域の方も積極的に参加できるよう、より本格的な訓練を実施したい。
- ・PTA広報を使用して地域理解を深めてもらう取組みを行った。今後自治会でどのような理解がされているかアンケート等をとり、現状把握をしたい。

視点5 学校管理・学校運営

<副校長・教頭>

- ・各HR教室の机は新規格のものに交換した。教室が窮屈になることはなく、かつ広くなった机上のスペースで勉強ができている。
- ・不祥事防止について、月に1回職員会議後にテーマに沿った研修を行っている。本校からは不祥事が起こることなく年度末を迎えることができた。
- ・制服について、ジェンダー理念や気候変動に配慮した制服を決定した。生徒や保護者、職員にアンケートをとり、メーカー・デザインの決定に反映した。

質疑・意見交換 (○:委員 ●:学校)

- スタディサプリについては、個別最適な学びが可能であり、生徒が自分自身で学ぶ内容を選択できるツールだと考えている。
- 広報活動については、HPやSNSを活用しても志願者数は伸びにくいのが実情である。ナーチャリングという、個で繋がりながら、その個に向けたアプローチ、発信を行う取組みも手段の一つとしてある。
- スタディサプリ活用率が伸びているが、進路指導ではどの程度活用されているのか。また、端末の活用について、生徒自身が持参する形になっていくことから、端末の使い方や、ログイン方法等の指導の工夫について検討する必要があると感じている。
- 他県でも部活動の生徒による小学校への指導など、地域で協力しているところがある。
- 新制服は、ジェンダー理念という点において生徒目線で考えられていると感じた。制服などで性的不和を感じている生徒も多くいるのが現状なので、自分で選択できるのは魅力である。
- 以前は生徒の端末が机に乗り切っておらず、膝の上で使用している生徒がいたので、大きな机への変更は効果があるのではないか。入試選抜について、欠員が出たことに対してはどのように考えているのか。
- 入試選抜に向けて、広報活動等できる取組みは行った。欠員の原因はまだ完全に分析しきっていないところがあるが、地理的に交通等で不便があることに加え、生徒が県西地域より東の方に流れていく傾向があるのではないか。対応策として、新制服などもアピールしながら、本校で学んでほしいというアプローチをしていきたい。
- 生徒の自主的な活動や主体性を活かそうとしている職員の取組みを、総合的な探究の時間等の活動から感じられた。
- 中学生との交流について、部活動等を通じて現役の高校生と交流することは、中学生のキャリア教育にも繋がると考えている。

- 地域の方から、生徒と一緒に清掃活動をすると、地元の高校である足高生とコミュニケーションを取ることができてうれしいという声が寄せられている。地元の夏祭り等にも来てもらっているので、中学生との交流のチャンスにもなるのではないか。
- 避難所開設訓練については、自治会としても学校での訓練に積極的に参加できるよう、対応を検討したい。
- スタディサプリは学校として英語に特化させているのか、生徒自身が英語を選択した結果なのか。
- 学校として英語に取り組ませているが、全体としての到達目標は特に掲げていない。全体として課題が増えており、生徒にとって大変だという意見もある。教員からのアプローチを減らすことで生徒の主体性を尊重し、検定試験の情報等、生徒からの求めがあれば案内できる体制にしていく。
- ジャージの変更はないのか。
- 魅力の発信度という点で制服を優先した。ジャージの変更については今後検討していく。
- 学校として制服に込められた思いを生徒に伝える必要がある。生徒が自分自身を律することができるよう指導していってほしい。
- 進路について、入学してからのミスマッチを減らすためにも、職場見学やオープンキャンパスに足を運ばせる指導をしてほしい。
- 文化祭のキャッシュレス化については、他校でも業務削減につながったという報告があり、ぜひ導入してほしい。
- 教育課程について、どのようにすれば学ぶ喜びや充実感を測定できるのか考えている、授業評価やアンケート等を活用して測定できればPR等にも活用できるのではないか。

その他

- ・新年度改めて学校運営協議会委員の名簿を作成する。
- ・次回運営協議開催予定日時：6月半ば予定

閉会（校長）